

ると、地方公共団体は、平成20年度中に公立病院改革プランを策定することとされており、経営効率化については3年、再編・ネットワーク化と経営形態の見直しについては5年程度の期間を対象とすることになっている。

当町にとって最も大きな影響があると思われる再編・ネットワーク化は、都道府県が有識者を含めた検討・協議の場を設置し、計画・構想を策定していくこととされており、国が示したモデルケースにより宇和島圏内の公立病院の再編成を想定すると、市立病院が基幹病院となり、周りの公立病院は診療所化されるとともに、経営主体についても統合されて、市町の経営から独立行政法人に経営が移行するようになる可能性もある。

このような国の方針と全国的な医師不足の状況、診療報酬の改定などの近年の医療制度の改革の状況を見ると、医療費を抑えようとする国の意図が明らかであり、公立病院の経営をめぐる将来の状況は決して明るいものとはいえない。このような状況の中、北宇和病院の運営においては、指定管理者の経営努力もあり、病床利用率が80%を超えるようになってきている。病院の運営自体は、年々赤字の額が減少するのではないかと考えてい

るが、それには、医師を確保し現在の診療体制を維持することが最大の条件であり、医師の確保が来ない場合には、病床数と診療科の見直しをせざるを得なくなることも予想され、経営的には非常に厳しい状況になってくると考えられる。

いずれにしても、診療報酬の改定等自らの経営努力ではどうしようもない要因もあり、この後も非常に厳しい病院事業の運営が予想されるが、現在の診療体制を維持するとともに、経営努力と住民の方々のご協力によって患者を確保し、健全経営を図ることができるよう努めたい。

〈松野町との合併について〉

問 住民投票を行う考えはあるか。

答 山本勲議員への答弁と重複するが、私としては、合併の是非を含め多様な案件を協議し決定していくためには、早期に合併協議会を立ち上げ、広く住民の意思や考え方をお聞きしたいと考えている。また、時期・金・人などの問題等を考えても、今の段階で住民投票をするということにはならないと考えている。

〈公営住宅団地の入札について〉

問 談合疑惑について。

答 山本勲議員の質問の際にも答弁しているが、本町の談合情報対応マニュアルに即して、入札前の談合情報の取扱いとして必要とする具体的事実の確認が取れていないので、その対応はしていないが、いずれにしても、談合の防止は重要な課題である。当然、国・県からの指導もあり、私自身も入札に際しては、入札に先立って、公正な入札の執行についての周知をしているところである。今後も、町工事の競争入札の公正な執行に努めたい。

問 今後の入札方法について、どのように考えているか。

答 近年の公共工事等の落ち込みなどにより、地域経済は極めて厳しい状況にある。これからも、町内でできることは町内という基本原則に立ち、地元業者の育成と雇用の場を確保するという観点から、町内業者による指名競争入札の方式で実施したいと考えている。

山本重夫 議員

〈節安ふれあいの森について〉

問 平成19年度の収支について。

答 今年度の収支は、11月末現在で収入が265万4千591円、支出が442万402円となつて

おり、176万円余りの赤字である。収入の主なものは、簡易宿泊施設の使用料109万8千円、そらめん流しの収入約95万8千円である。

なお、リングゴによる収入は、リングゴ狩りの入園料は0円、リングゴの販売収入は16万2千円余りという状況である。また、支出の主なものは人件費の309万8千円余りであり、人権費が支出の大半を占めている状況である。

問 今後の取組みについて。

答 これまでの議会の折にも説明したとおり、厳しい町財政事情と合わせて、地域の活性化など広い観点に立ち経営の見直しを検討した結果として、経営赤字の大半を占めるリングゴ園を休園することとし、11月から管理のための常時雇用者は置かないことにした。今後の経営形態については、体験学習施設、簡易宿泊施設およびそらめん流しに重点を置き、夏季シーズン等に限定した施設利用にしたいと考えている。

節安ふれあいの森は、地域のご協力があつてこそ生かされる施設だと考えている。今後も、地域の方々のご協力を得て、施設の利用向上を図り、地域の活性化と経営